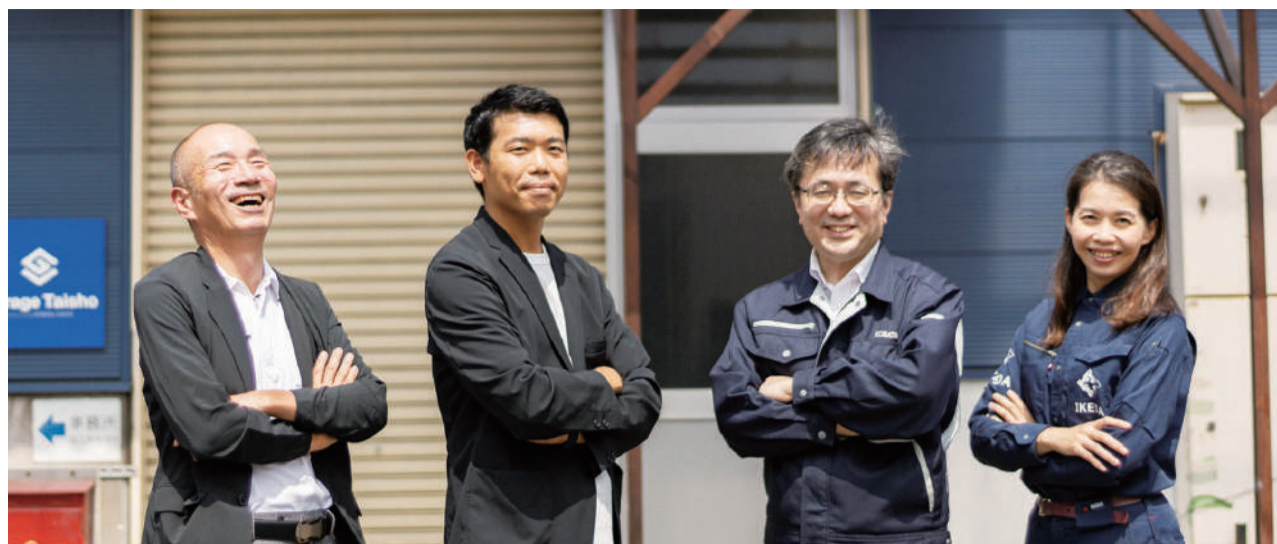


## 大正PEOPLEインタビュー vol.3

## 「りびんぐらボ大正・港」

ものづくり企業を中心に、〈医工福連携〉をテーマに地域課題の解決をめざす「りびんぐらボ大正・港」。企業間だけでなく、行政や研究機関等とも協働して、さまざまな取り組みを行っています。今回はプロジェクトの中核を担う株式会社木幡計器製作所を訪ね、メンバーの皆さんに活動の意義や今後の展開について、お話をお伺いしました。

問合せ 政策推進 4階42番 ☎ 4394-9942



右から <sup>はやしちちよ</sup> 林幸代さん(株式会社池田鉄工所 代表取締役)、<sup>こばたいわお</sup> 木幡巖さん(株式会社木幡計器製作所 代表取締役)、<sup>いしだゆきひろ</sup> 石田幸広さん(株式会社木幡計器製作所 取締役、臨床工学技士)、<sup>のぎきけんじ</sup> 野崎研二さん(株式会社木幡計器製作所 事業推進グループ Garage Taisho 事務局長、りびんぐらボ大正・港事務局長、医工連携コーディネーター、工学博士)

## 課題をチャンスに。大正区には、日本の未来を変えるポテンシャルがある。

## 依頼から25時間後に納品! 医療現場を助けた、町工場のチームプレー。



運営の中心である木幡さん

医療、工業、福祉の関係企業が連携し地域課題の解決をめざす「りびんぐらボ大正・港」のスタートは、令和2年1月。医療機器の製造を手掛ける木幡計器製作所と、地域の基幹病院である済生会泉尾病院が中心となり準備を進め、1月にキックオフとして第1回の会合が開かれました。会合には区内のものづくり企業10社をはじめ、大学研究機関や行政機関など、多くの人に参加。いよいよ大正・港の医工連携プロジェクトが本格始動するはずでした。

しかし、3月に予定していた第2回の会合は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止に。医療現場は感染症対応に追われ、会合ができない状況になりました。そこへ、当時は地元クリニックに勤務していた石田さんから、木幡さんに連絡が入ります。

「泉尾病院では、新型コロナウイルスの患者さんからの飛沫を防ぐ防護具がありません。図面はあるので、何とか形にしてみませんか。」



飛沫防止カバーフレーム

相談を受けた木幡さんはすぐメンバーに連絡、午後にはZoom(ズーム)でWeb(ウェブ)会議を開きます。そこで6社の町工場それぞれができる加工を分担し、組み立てを行い、なんと翌日には図面どおりの防護具が完成。「相談の連絡から25時間後に、製品を病院に届けることができました。このスピード感は、これまで「大正ものづくりフェスタ」の開催などを通じて培ってきた関係性があったからこそ、各企業のスムーズな連携により、翌日納品を成し遂げました。」と木幡さん。

これをきっかけに、医療現場の困りごとを解決するものづくりを続け、フェイスシールド「エアリー®」や飛沫防止テントなどを製品化。防護具の組み立てを担当した池田鉄工所の林さんは、初めてオリジナルの医療用フェイスシールドを開発し、販売を開始。その際も、ラ



フェイスシールド「エアリー®」



林さん

ボのサポートがチカラになったと言います。「下請けなので、製品を開発したことがなかったんです。だから製品についてのアドバイスや、特許や商標のことも教えてもらえて助かりました。」と林さん。

## 人と人、医療と工業をつなぐ。

コロナ禍を経験したことで、一気に進んだ医工連携プロジェクト。「課題にどう対応するかを話し合い、一社ではできないことも企業同士が連携すればできる、と気づけたことは大きかったですね。」と木幡さんは振り返ります。現役の医療従事者であり、機械関係の知識も豊富な石田さんの存在が大きかったと言います。石田さんも、「医療と工業、どちらも専門性の高い職人の集団です。だから、その間をつなぐのは非常に難しい。その点で、医療従事者であり、機械にも強い臨床工学技士という仕事は、その役目ができるのでは、と考えていました。」と、自身の役割を認識。ものづくり企業間の連携と医療現場とのつなぎ役の存在が、プロジェクトの大きな推進力になりました。



石田さん

現在も月1回のミーティングをオンラインで実施し、参加団体もますます増加。医療のみならず、介護・福祉の分野にも目を向け、現在は「医工福連携」をビジョンに掲げています。

## 大正区の地域課題を解決することが、日本の未来のソリューションになる。

「りびんぐらボ大正・港」は、地域課題の解決がテーマ。「大正区の地域課題を解決することは、他の市町村、ひいては日本の地域課題の解決になると考えています。」と木幡さん。その理由を伺うと、「大正区は、地域課題の先進エリアなんです。」という回答が。大正区は大阪市24区内で最も人口が少なく、高齢化も進んでいます。少子高齢化による人口減少は、今後さまざまな地域が経験するもの。その先駆けである大正区がこの課題を解決できれば、他の自治体でも活用できるひとつのモデルケースになります。

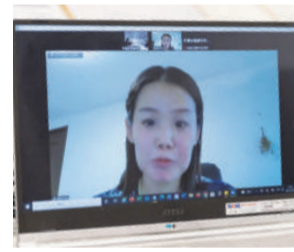
具体的な取り組みとして、ものづくり企業の健康経営。大正区は区民が区内の企業で働いているケースが多く、企業が健康経営を考えることは、区民の健康につながります。また、新しい製品を区民がモニターとして体験し、その感想や意見をフィードバックするなど、まち全体でものづ

くりをする構想を温めています。事務局長の野崎さんは、「人口の流出・流入が少ない大正区は、長期的なリサーチに向いています。都市部で人口動態変動が少ない地域は、実は非常に珍しい。大正区には、世界に先駆けた実証の場になる可能性があります。」と、大正区のポテンシャルを語ります。



事務局長の野崎さん

すでに実証実験やモニタリングの計画として、木幡計器製作所が開発した呼吸筋力測定器を使った兵庫医療大学との共同研究や、東京の医療系ベンチャー企業株式会社ジョコネ。が企画するすべての女性にある更年期の時期に起こることや対策方法をお伝えすることを目的とした「大正ほけんしつ」の実施(詳細は後日)など、さまざまな取り組みがスタートしています。



「大正ほけんしつ」の企画を進める株式会社ジョコネ。代表取締役の北奈央子(きたななお)さんは、東京からリモートで参加。

## 未来に向けて、一緒に考え、行動を。

「今の社会の課題は、簡単に解決できるものではありません。それぞれの立場で、自分は何ができるのかを考えて連携することが大切。興味を持ってくださる方があれば、地域の課題をともに考えるメンバーとして、活動に気軽に参加していただけたらうれしいですね。」と木幡さん。大正モデルが、日本の地域課題を解決するソリューションになる日まで。地域に根差した「りびんぐらボ大正・港」の活動は、未来へと続いていきます。

## りびんぐらボ大正・港

運営事務局 株式会社木幡計器製作所  
Garage Taisho 内  
〒551-0021 大阪市大正区南恩加島5-8-6  
TEL:06-6552-0545/050-3748-0545



「Garage Taisho」は、木幡計器製作所が運営するIoT・ライフサイエンス系ベンチャーのものづくりをサポートする施設。